

# エンタープライズクラウドを活用した 業務アプリケーションへの付加価値創造

日本オラクル株式会社  
アライアンス事業統括  
ISV/OEM営業本部  
大田 浩

**Modern Cloud Day Tokyo**

次世代クラウドが変える日本のビジネス



以下の事項は、弊社の一般的な製品の方向性に関する概要を説明するものです。また、情報提供を唯一の目的とするものであり、いかなる契約にも組み込むことはできません。以下の事項は、マテリアルやコード、機能を提供することをコミットメント（確約）するものではないため、購買決定を行う際の判断材料になさらないで下さい。オラクル製品に関して記載されている機能の開発、リリースおよび時期については、弊社の裁量により決定されます。

OracleとJavaは、Oracle Corporation 及びその子会社、関連会社の米国及びその他の国における登録商標です。文中の社名、商品名等は各社の商標または登録商標である場合があります。

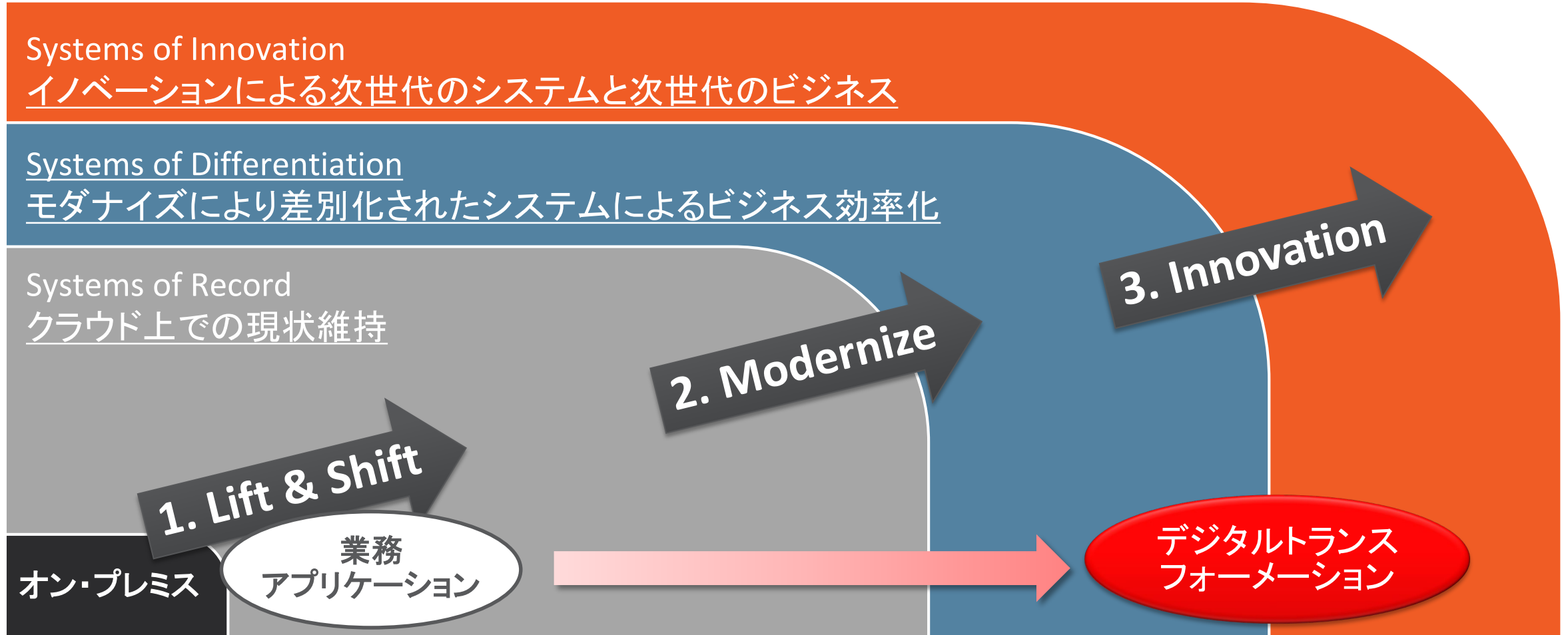
# Program Agenda

- 1 ▶ アプリケーションのクラウド化がもたらす付加価値
- 2 ▶ 持続的な付加価値の想像
- 3 ▶ クラウド活用の成功事例
- 4 ▶ クラウド活用でOracle Cloudを選択するメリット
- 5 ▶ マルチクラウドの活用

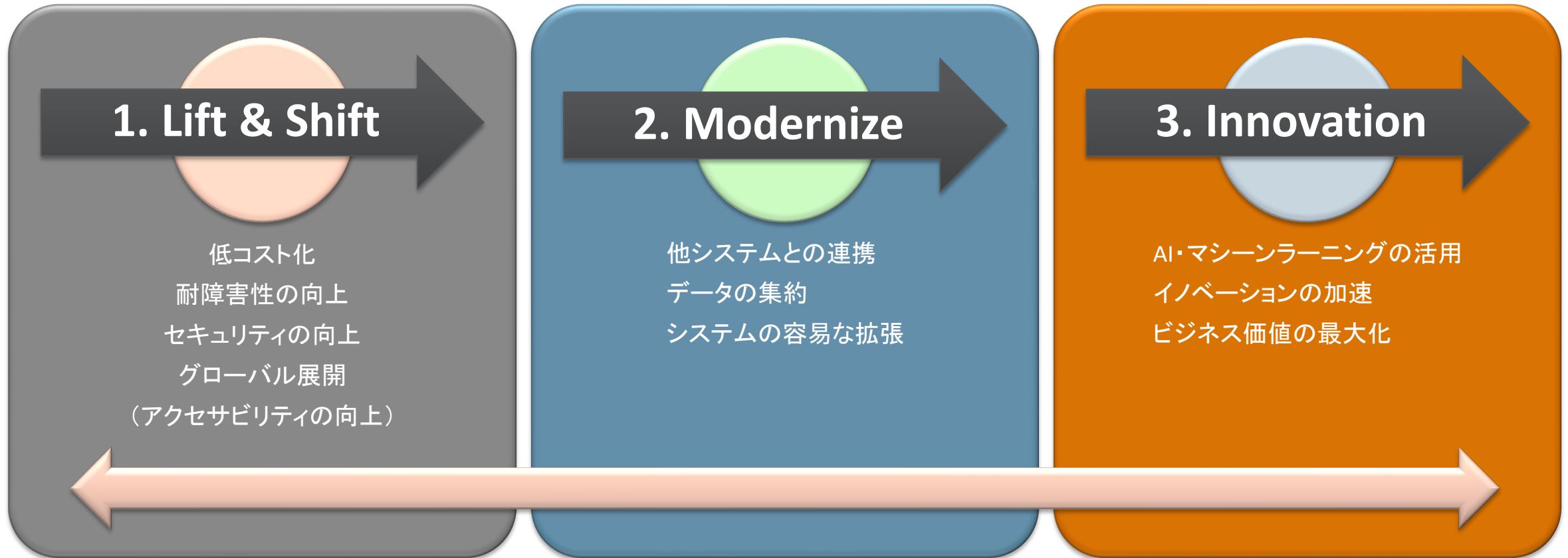
# Program Agenda

- 1 アプリケーションのクラウド化がもたらす付加価値
- 2 持続的な付加価値の想像
- 3 クラウド活用でOracle Cloudを選択するメリット
- 4 マルチクラウドの活用
- 5 クラウド活用の成功事例

# クラウド化へのステップ



# クラウド化のメリット



# Program Agenda

- 1 アプリケーションのクラウド化がもたらす付加価値
- 2 持続的な付加価値の想像
- 3 クラウド活用でOracle Cloudを選択するメリット
- 4 マルチクラウドの活用
- 5 クラウド活用の成功事例



# 持続的な付加価値の想像に必要な デジタル・トランスフォーメーション(DX)

- DXとは

- 経済産業省が2018年12月に発表した「DX推進ガイドライン」の定義より
- 企業がビジネス環境の激しい変化に対応し、データとデジタル技術を活用して、顧客や社会のニーズを基に、製品やサービス、ビジネスモデルを変革するとともに、業務そのものや、組織、プロセス、企業文化・風土を変革し、競争上の優位性を確立すること



# DXにおける「2025年の崖」について

- 2025年の崖とは - 経済産業省が2018年9月に発表した「DXレポート」より
- レガシーシステムに対する企業のデジタルトランスフォーメーション（DX）停滞により、**2025年以降**に年間で最大**12兆円**の経済損失が生まれる
- あらゆる産業において、新たなデジタル技術を利用してこれまでにないビジネス・モデルを展開する新規参入者が登場し、ゲームチェンジが起きつつある
- 現状把握をしたうえで、スピード感を持ってDXに取り組まないと、日本企業は市場競争の敗者になる
- 「DXレポート」で指摘された最悪の将来シナリオ
  - **60%** – 基幹システムを21年以上稼働している企業の割合
  - **43万人** – IT人材不足
  - **9割以上** – IT予算における保守運用費の割合
  - **最大12兆円** – システムの老朽化に起因するトラブルで生じる経済損失

# DXの推進による持続的な付加価値の想像

## DXの推進

### 業務の高度化や顧客への 新規価値の創出

- 本業分野でのデジタル活用
- 既存業務の自動化・効率化
- 顧客接点業務の高度化
- 組織運営・働き方改革

### 新規ビジネスの創出や ビジネスモデルの変革

- 新規事業の創出
- 新商品・新サービスの創出
- ビジネスモデル変革
- 新事業・異業種への参入

## DXの環境整備と企業内改革

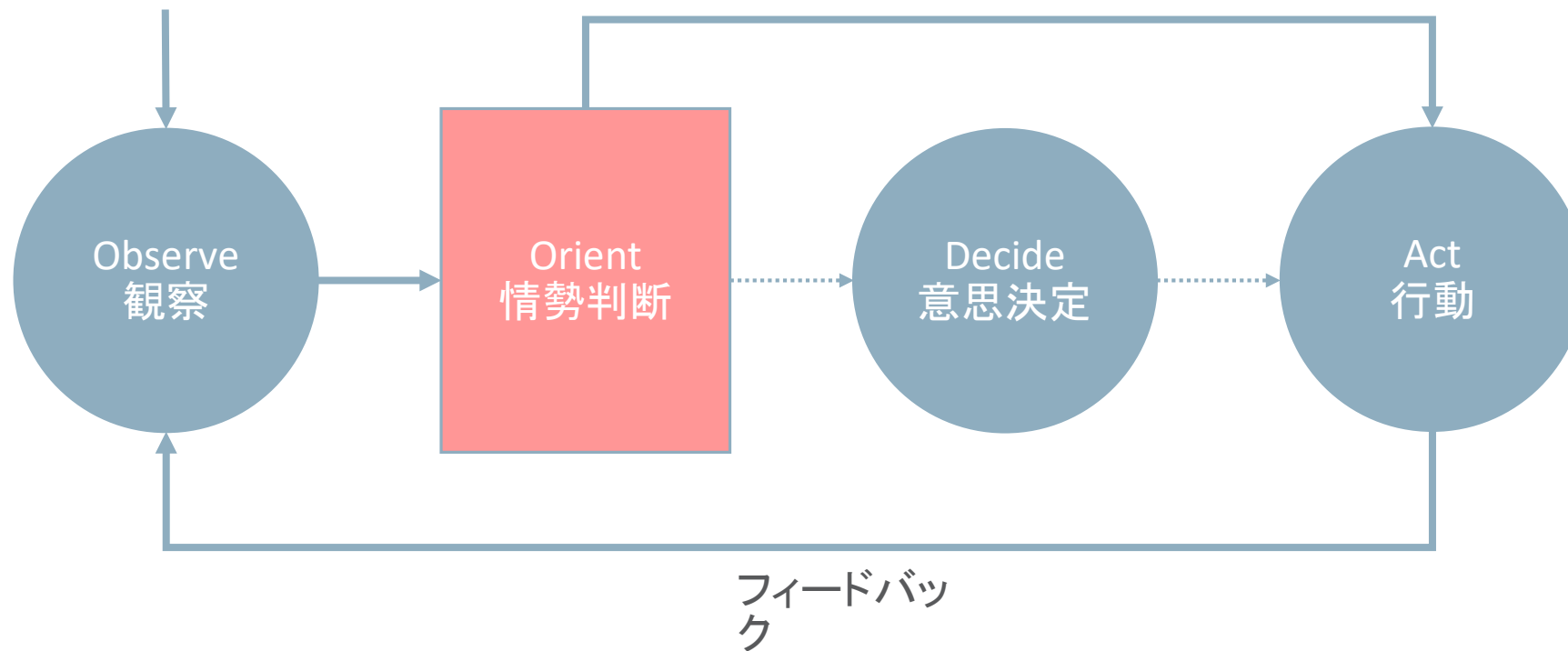
- DX推進のための意識・組織・制度・権限・プロセスおよび人材に関する環境整備と企業内変革

出典：ITR デジタルトランスフォーメーション（DX）の全体像

# DXとOODAループによる持続的な付加価値の想像

「OODA LOOP」のイメージ図

外部情報・状況変化



出典：チェット・リチャーズ「OODA LOOP」 原田勉訳・解説、東洋経済新聞社

# Program Agenda

- 1 アプリケーションのクラウド化がもたらす付加価値
- 2 持続的な付加価値の想像
- 3 クラウド活用でOracle Cloudを選択するメリット**
- 4 マルチクラウドの活用
- 5 クラウド活用の成功事例

# 国内クラウド市場の現状

基幹システムへの  
適用は  
いまだ低い

デジタル・トランス  
フォーメーション  
はまだこれから

# 国内クラウド市場の現状

**Oracle Cloud  
Infrastructure  
(OCI)**

基幹システムへの  
適用は  
いまだ低い

**東京リージョン  
(大阪リージョン)**

**Oracle  
Autonomous  
Database**

デジタル・トランス  
フォーメーション  
はまだこれから

# 急速な勢いでグローバル展開する Oracle Cloud Infrastructure





# DXを支えるOracle Cloud



## 基幹でのクラウド活用

- 80%以上の基幹システムは、いまだオンプレミス
- 一方、約半数お客様はここ数年でオンプレミスからクラウドへの移行を望む

## エンタープライズ・クラウド

- ハイブリット需要に基づきエンタープライズ・グレードのクラウドを提供
- 東京リージョンは、Gen2 CloudのOracle Cloud Infrastructure を基盤として提供

## DXレポートにおける警告

- DXが進まなければ、「2025年には最大で年間12兆円の経済損失が生じる可能性がある」
- DX成功の1つのキーは迅速なデータ活用

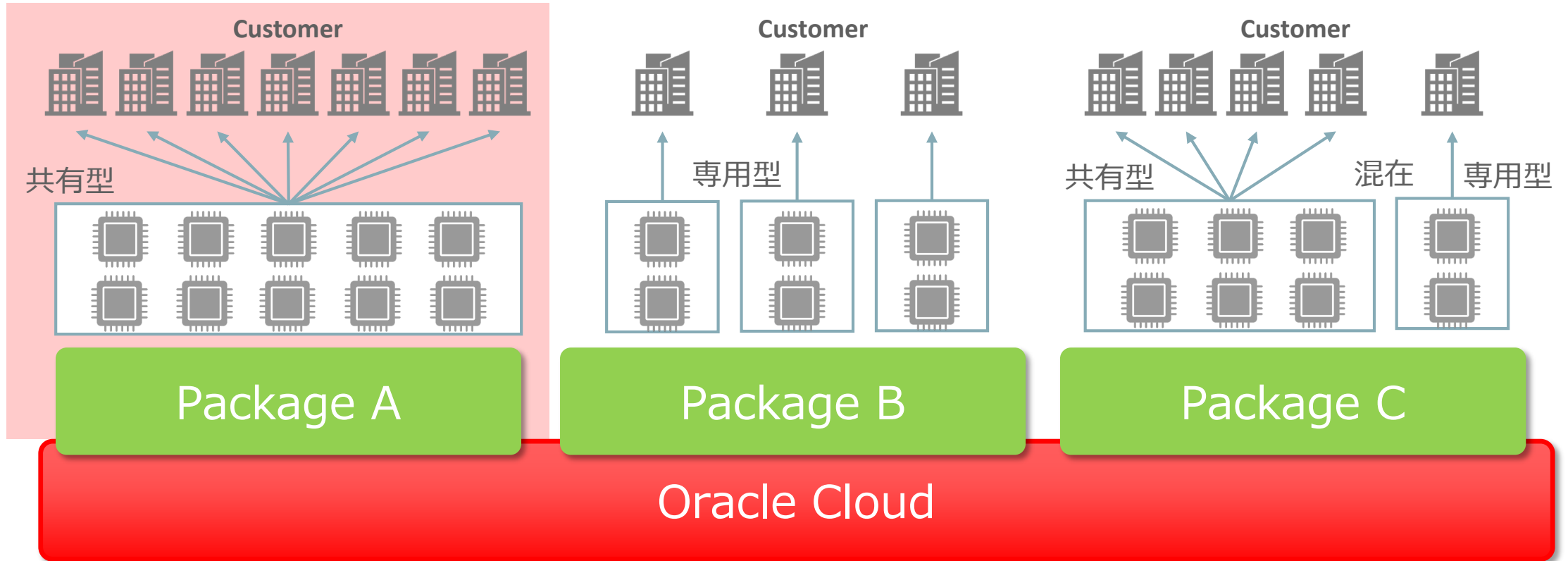
## イノベーション・クラウド

- データ・ドリブンなイノベーションをクラウドベースで提供
- 東京リージョンでは、業界初のAutonomous Databaseやクラウド・ネイティブ開発環境も提供

# ORACLE クラウドでのアプリケーション提供例

共有型: 1クラウド契約

専有型: 1E/U毎のクラウド契約    混在型: 共有型と専有型の混在



あらゆるビジネスモデルに柔軟に対応

- ✓ 購入したリソース毎に、カスタマーへの提供方法を自由に設定可能
- ✓ カスタマー向け使用料金(定額、従量)は自由に設定が可能

# 共有型でサービスを展開する際の課題

セキュリティ要件の高いシステムについては、コンプライアンス対応の必要性があります。

以下、日本のお客様から問い合わせが多い主なコンプライアンス対応一覧

| 区分          | 基準              | 適用業種       |
|-------------|-----------------|------------|
| 国際基準        | ISO/IEC 27001認証 | 官民学全て      |
|             | SOC1, 2, 3レポート  | 官民学全て      |
|             | PCI-DSS認証       | クレジットカード   |
|             | HIPAA           | 米国ヘルスケア    |
|             | FedRAMP         | 米国政府機関     |
| 国内基準 – 業界固有 | FISCガイドライン      | 金融         |
|             | NISC 政府統一基準     | 日本国官公庁     |
|             | 3省3ガイドライン       | ヘルスケア(含製薬) |
| 国内基準 – その他  | プライバシーマーク       | 官民学全て      |

# コンプライアンス対応 / 一例

## 医療情報システムに関する各ガイドライン - 3省3ガイドライン - 総務省版より一部抜粋

(イ) 情報の区分管理とアクセス権限の管理に対する要求事項

本項は、医療情報を取り扱うクラウドサービスにおける情報システム上の利用権限に関する要求事項について示す。厚生労働省ガイドライン第5版では、医療情報に対して、医療従事者の資格に応じたアクセス権限の設定を厳格に行えるようにするための対応策等について示している。

クラウドサービス事業者の対応として、受託する情報のほか、医療情報を取り扱うクラウドサービスに係る情報も含めて、情報区分を設定し、それぞれについて適切な権限設定・付与を行うこと等に対応するための要求事項を示す。

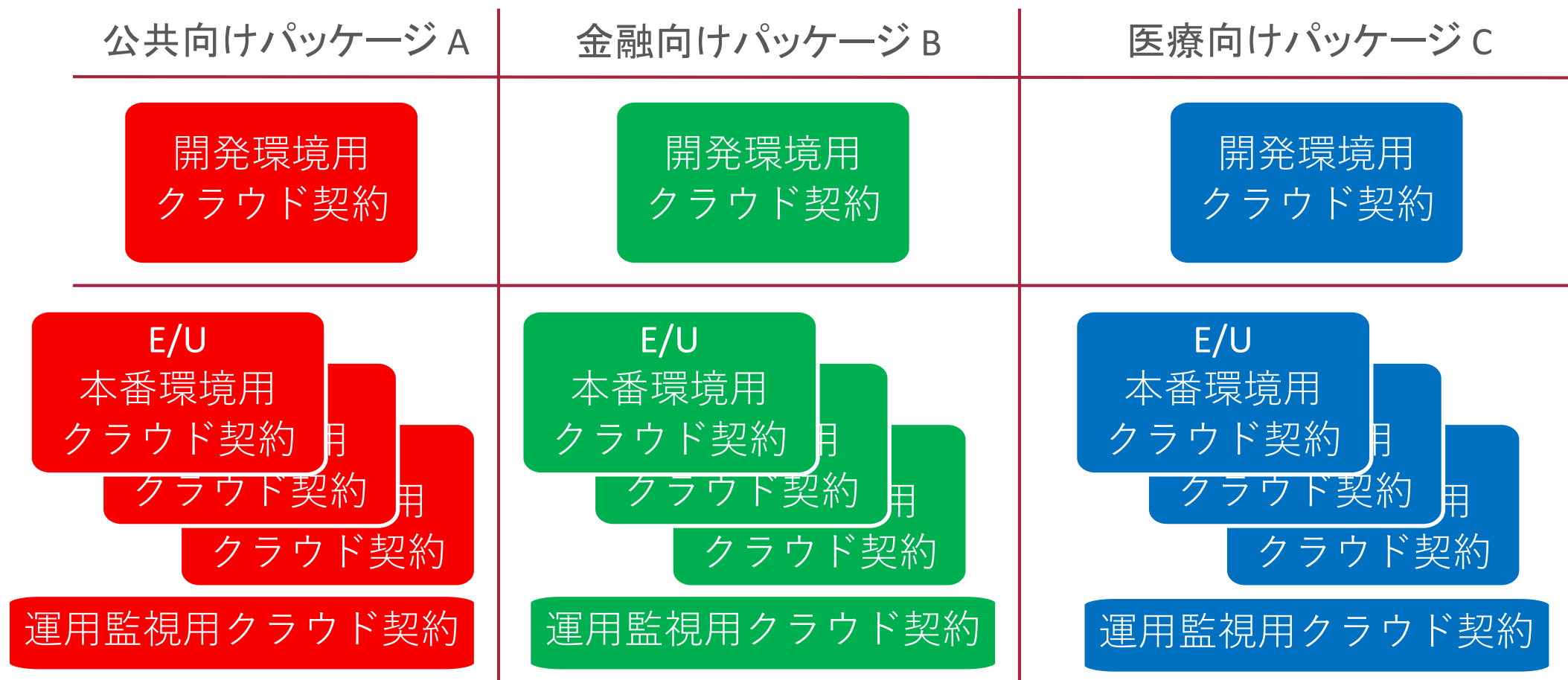
### 1. 情報管理区分

- ① **医療情報とそれ以外の情報を区分できる措置**を講じる。
- ② 医療情報については、**情報区分に従ってアクセス制御**を行えるようにする。
- ③ **仮想化技術を用いた資源をサービスに供する場合には、論理的に区分管理を行えることを保証**できる措置を講じる。
- ④ 医療機関等による**情報資産の区分の設定や、これに対するアクセス制御の設定の対応**について、サービス仕様適合開示書に基づき、医療機関等と合意する。

**コンプライアンス対応のためには厳格なアクセス制御が必要**

# 厳格なアクセス制御を満たすための要件

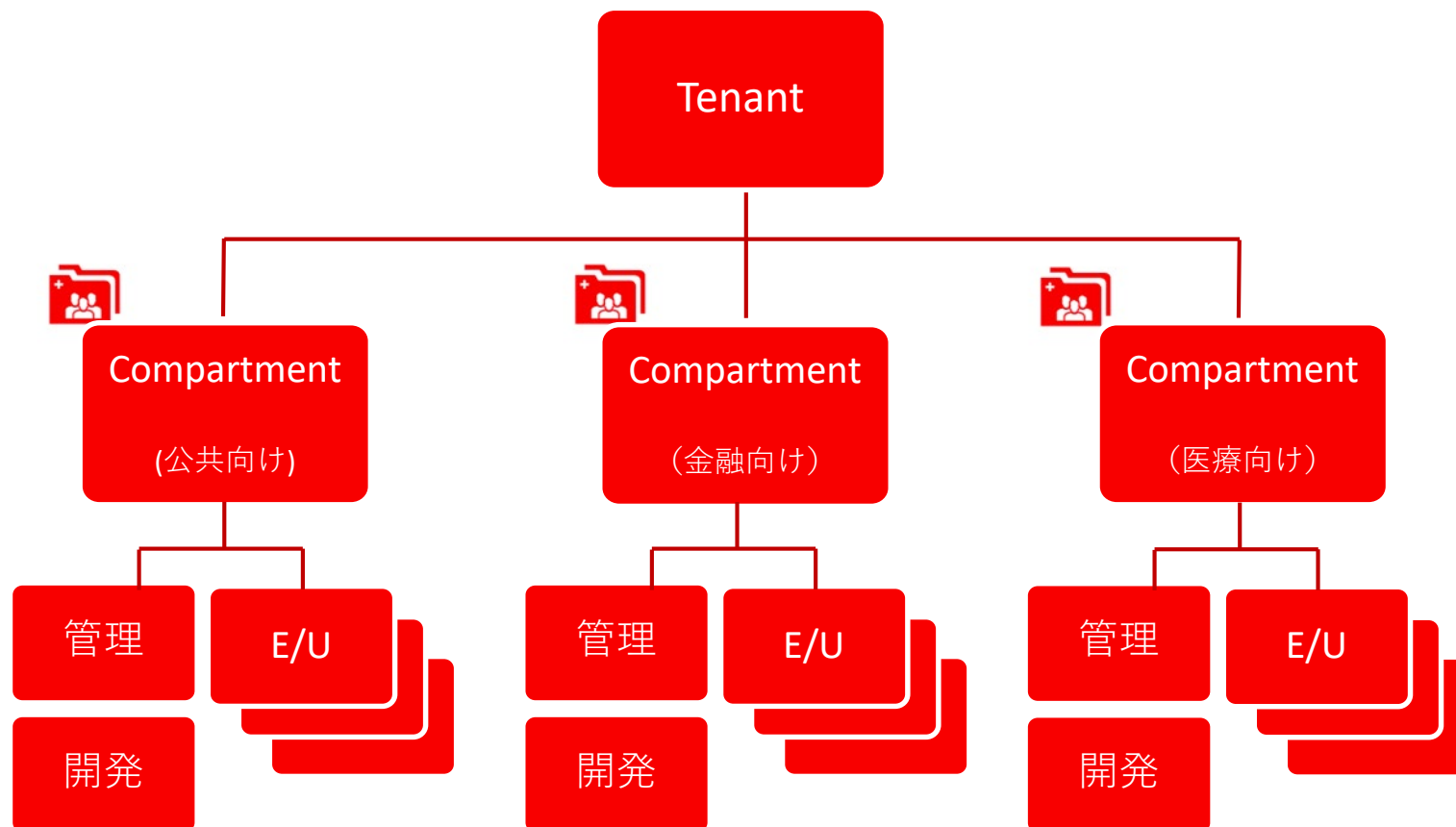
情報区分(パッケージ、管理者、開発者、利用者)毎に独立したクラウド環境が必要



通常のクラウド環境ではクラウドの契約を複数に分けることが必要

# AP展開に適したガバナンス・デザイン - Compartment

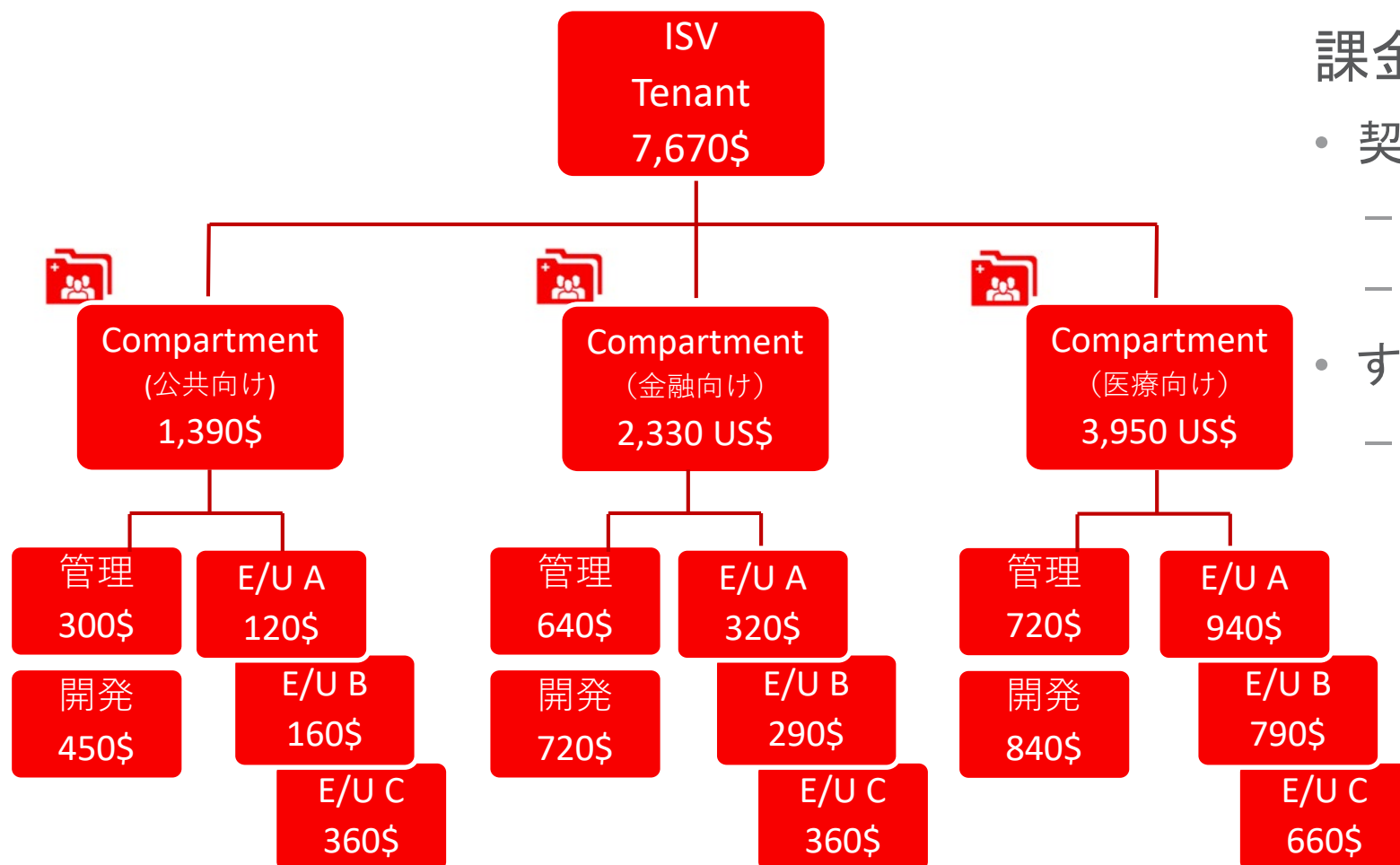
部門やパッケージ、E/Uごとに独立した環境とアクセス制御



- コンパートメントとは
  - OCIリソースの集合体を作ることができる論理的な区分け
  - 最上位(root)のコンパートメント = テナンス(tenancy)
  - コンパートメントは階層化できる(最大6層)
- 利用目的
  - リソースに対するアクセス権制御の効率化
  - 課金の管理、トラッキングの効率化
  - リソース上限の設定

# AP展開に適したコスト計算 – Cost Analysis

部門やパッケージ、E/Uごとにクラウドの利用料を表示



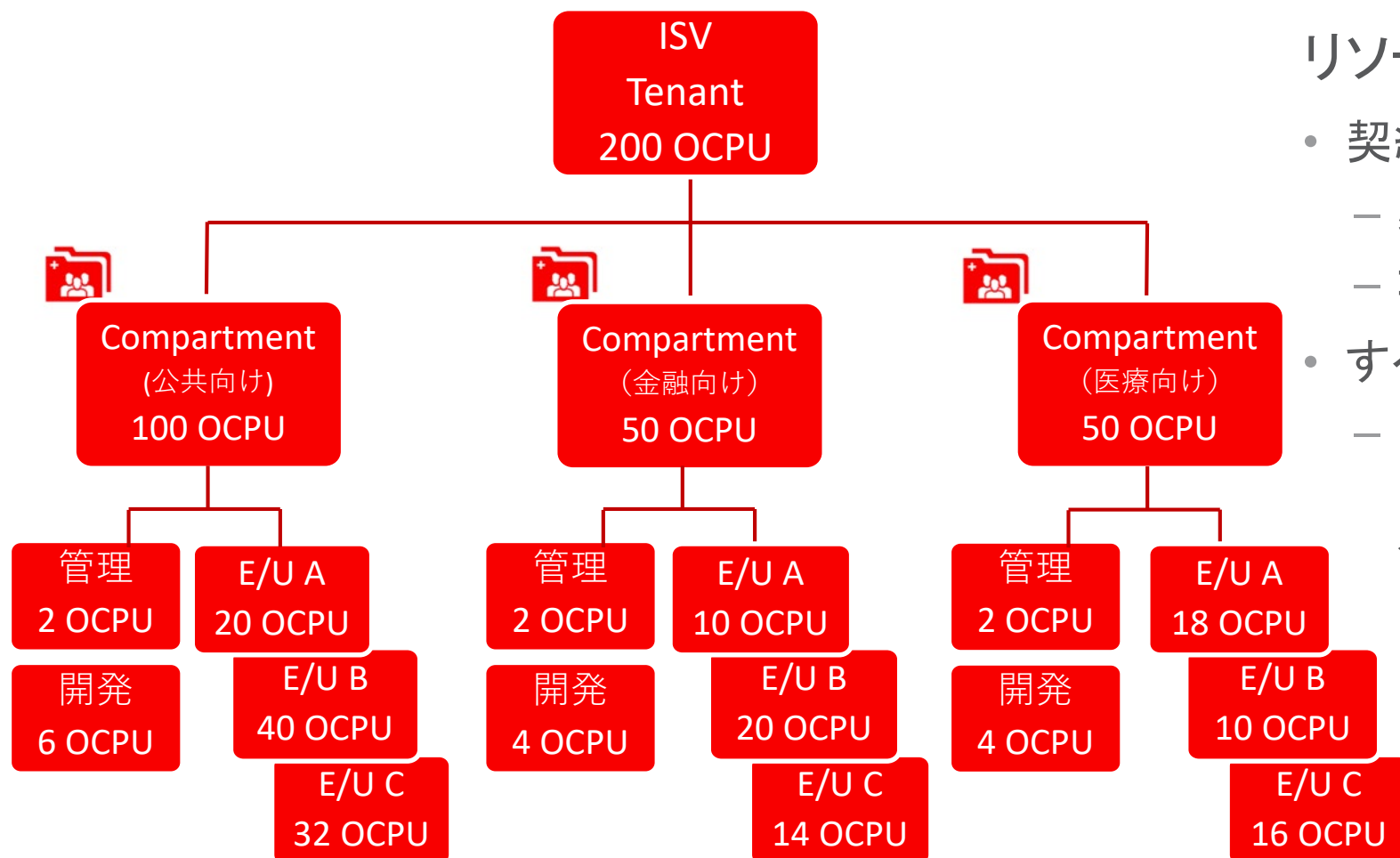
## 課金の管理

- 契約額と使用予測に基づく予算作成
  - 消費が増加し、契約額超過の早期警告
  - コンパートメントあたりのコストも確認
- すべてのリソースでモニタリングを有効化
  - モニタリングデータとコストデータをマージして、リソース使用率を向上させる方法に関する強力な洞察を得る



# AP展開に適したコスト計算 – Quotas

部門やパッケージ、E/Uごとにクラウドリソースの上限を設定



## リソース上限の設定

- 契約額に応じたリソース上限の設定
  - 必要以上のリソース消費を抑制
  - コンパートメント毎のリソース上限設定
- すべてのリソースを制御
  - Block Volume, Compute, Database DNS, Email Delivery等、OCI上の全てのリソースに上限を設定可能

# DXを支えるOracle Cloud

## 基幹でのクラウド活用

- 80%以上の基幹システムは、  
いまだオンプレミス
- 一方、約半数お客様はここ数年でオン  
プレミスからクラウドへの移行を望む

## エンタープライズ・クラウド

- ハイブリット需要に基づきエンタープライズ・グレードのクラウドを提供
- 東京リージョンは、Gen2 Cloudの  
Oracle Cloud Infrastructure を  
基盤として提供



## DXレポートにおける警告

- DXが進まなければ、「2025年には最大で年間12兆円の経済損失が生じる可能性がある」
- DX成功の1つのキーは  
迅速なデータ活用

## イノベーション・クラウド

- データ・ドリブンなイノベーションを  
クラウドベースで提供
- 東京リージョンでは、業界初の  
Autonomous Databaseや  
クラウド・ネイティブ開発環境も提供

# Autonomous Databaseが実現する世界

- ・現時点で最高な構成。将来もさらなる進化を。

## 今後も随時機能強化

### 高可用性・高セキュリティ

自動的に  
障害回避



自動的に  
エラーハンドリング



自動的に  
セキュアな構成



### 性能チューニング自動化

自動的に  
パフォーマンス診断



自動的に最適化



## 今後実装

### テスト・移行・拡張自動化

自動的に  
テスト実行



自動的に移行



1

構築が簡単！

高性能 DWH 環境を簡単に利用可能

2

運用が楽！

システム運用の省力化・自動化

3

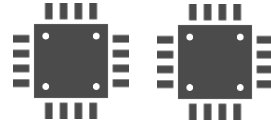
コストパフォーマンスが良い！

- 予め構成・最適化テスト済み
- 自動的にモニタリング/バックアップ/パッチ適用
- 自動的にスケーリング(拡張、縮退)

# データ・ドリブンなイノベーション 機械学習プロジェクト全体

## INPUT

大量のデータ



## 情報処理

データの塊から  
何かを予測する  
予測モデルを作成

## OUTPUT(機能=できること)

新しいデータに対し  
予測モデルを適用して  
活用する

データの準備

予測モデルを  
作成・評価

実装  
(サービスへの  
組み込み)

工数

70%

データ収集とデータ基盤の整備

30%

モデル作成・評価と活用のサイクル

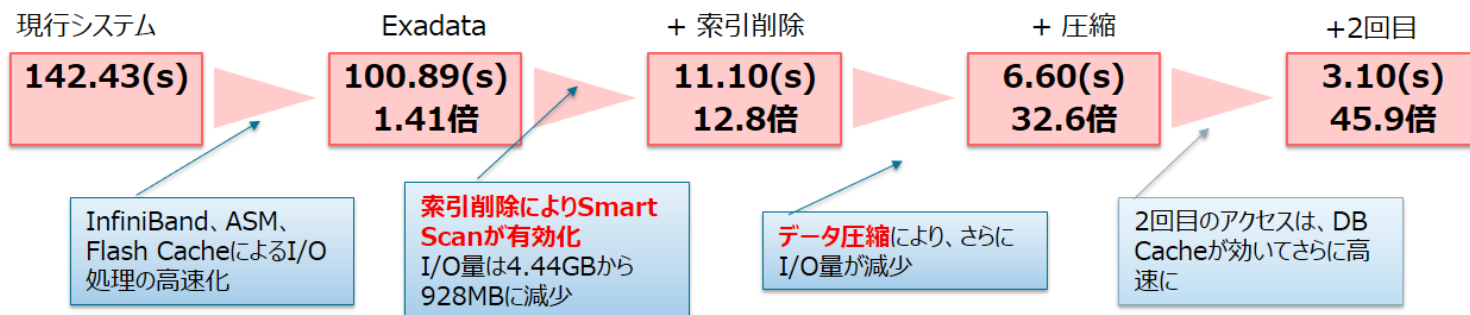
# データ・ドリブンなイノベーション 機械学習プロジェクト – データの準備と情報基盤整備

## 参考) Exadataが実現する驚異的な性能改善効果

### 他社様での検証結果のご紹介

処理内容 • 汎用検索1：7つの表を結合し1件の結果を戻す検索処理

- 効果
- Exadataに移行するだけでI/Oが高速化し、1.4倍の性能向上
  - 索引削除によりSmart Scanが有効化しI/Oが最適化され、12.8倍まで性能向上
  - 圧縮によるI/O量減少で、さらに45.9倍まで性能向上



ADWならば、  
ここからスタート可能



# データ・ドリブンなイノベーション 機械学習プロジェクト – データの準備と情報基盤整備

## 自動パフォーマンス診断

- 業界最先端の診断自動化を活用
- Automatic Database Diagnostic Monitor (ADDM)
- Active Workload Repository (AWR)
- リアルタイムSQLモニタリング



## 自動最適化

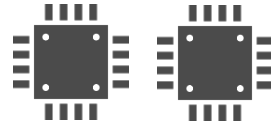
- 業界最先端のデータベース・チューニング自動化を活用
- 自己最適化 – キャッシング、ストレージ・インデックス、負荷分散を行う多くのアルゴリズムを搭載
- オプティマイザが新しいデータのロードに合わせ、統計情報を収集しさらに自動化
- 自動SQL (再)チューニング
  - 機械学習技術が定期的にSQL実行計画を最新の統計情報に基づいて再評価し、より良い実行計画へのリコmendと実装



# データ・ドリブンなイノベーション 機械学習プロジェクト全体

## INPUT

大量のデータ



情報処理

データの塊から  
何かを予測する  
予測モデルを作成

## OUTPUT(機能=できること)

新しいデータに対し  
予測モデルを適用して  
活用する

データの準備

予測モデルを  
作成・評価

実装  
(サービスへの  
組み込み)

工数

70%

データ収集とデータ基盤の整備

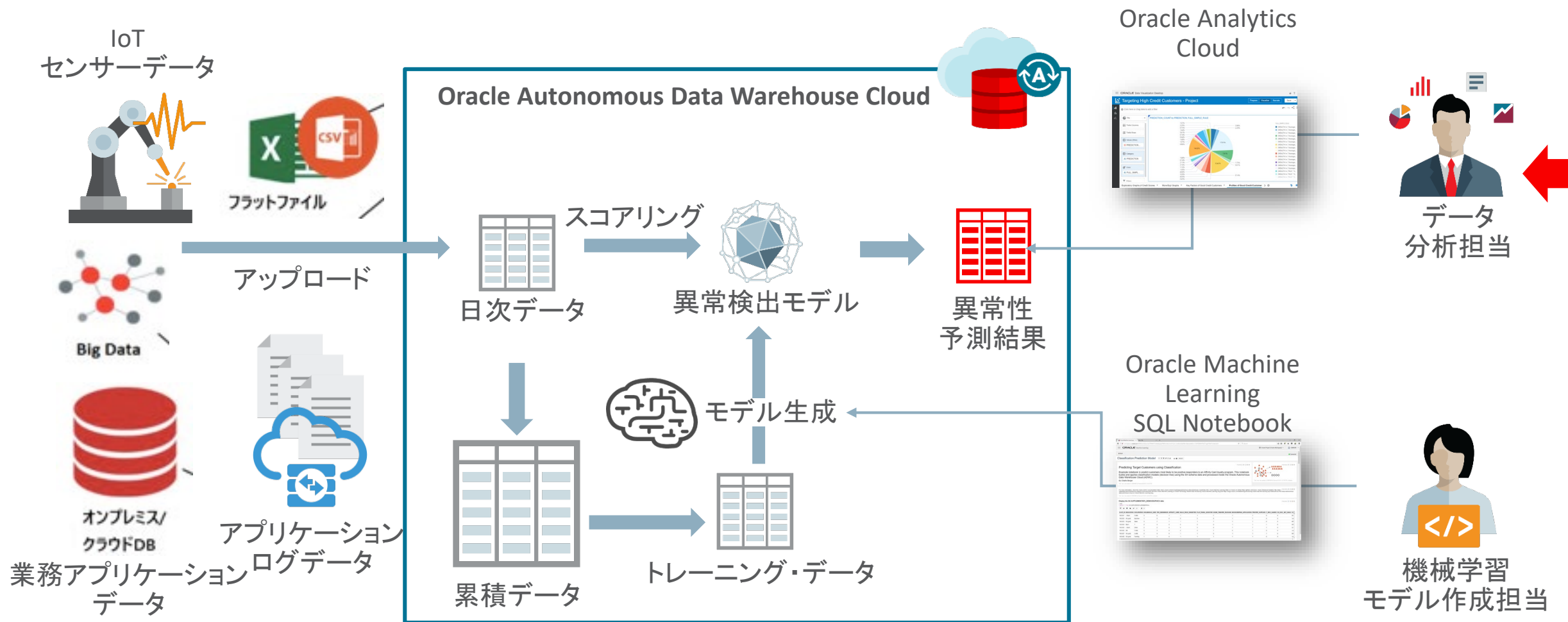
30%

モデル作成・評価と活用のサイクル



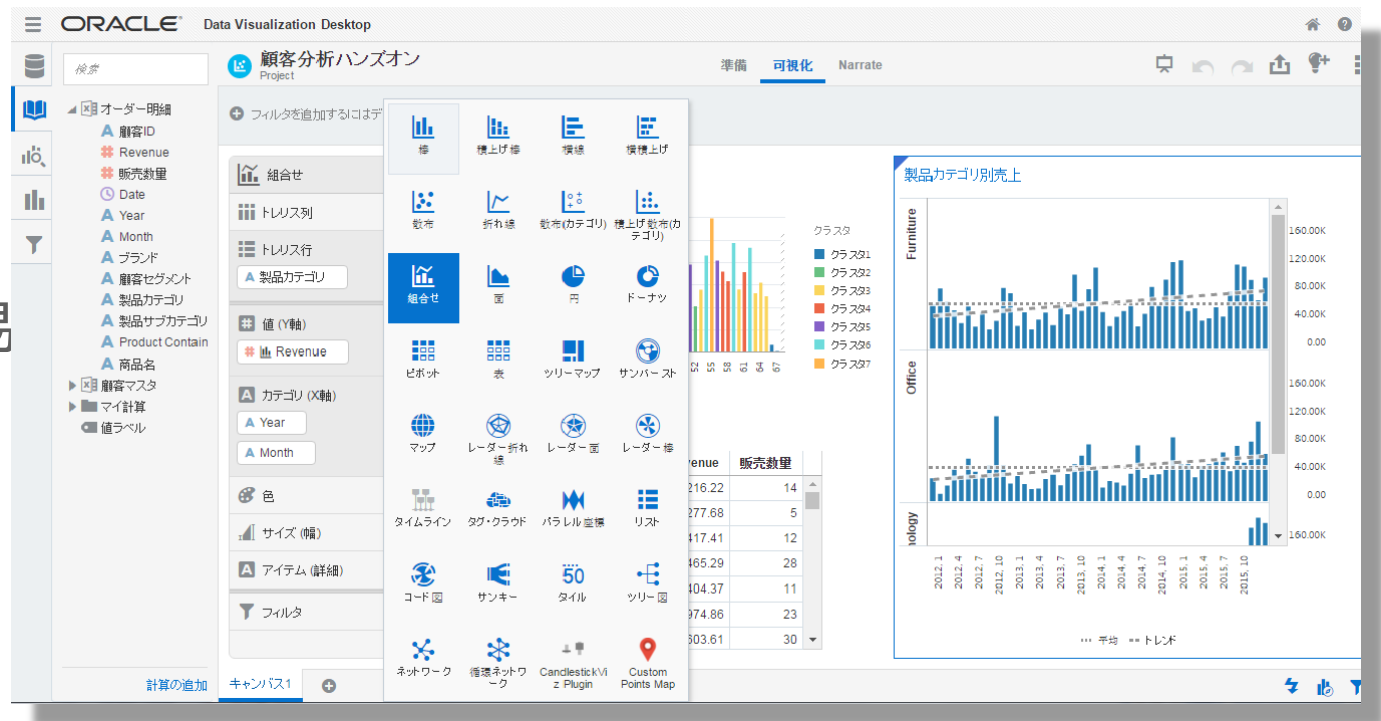


# データ・ドリブンなイノベーション 機械学習プロジェクト – 予測モデル作成・評価・実装



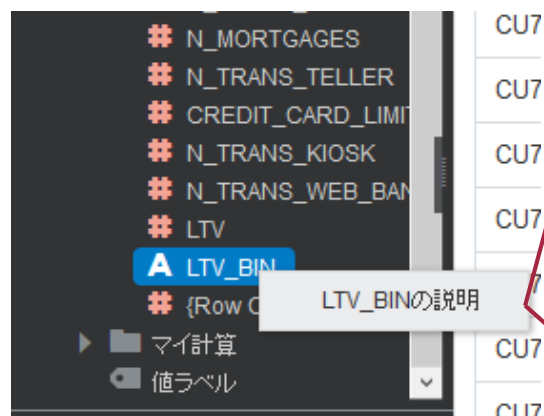
# データ・ドリブンなイノベーション 機械学習プロジェクト – 予測モデル作成・評価・実装

- ドラッグ & ドロップで直感的な操作
- クリックで様々な操作が可能
- 基本操作はユーザー教育不要
- ファイルの簡単アップロードや、既存システムからのデータ接続が容易

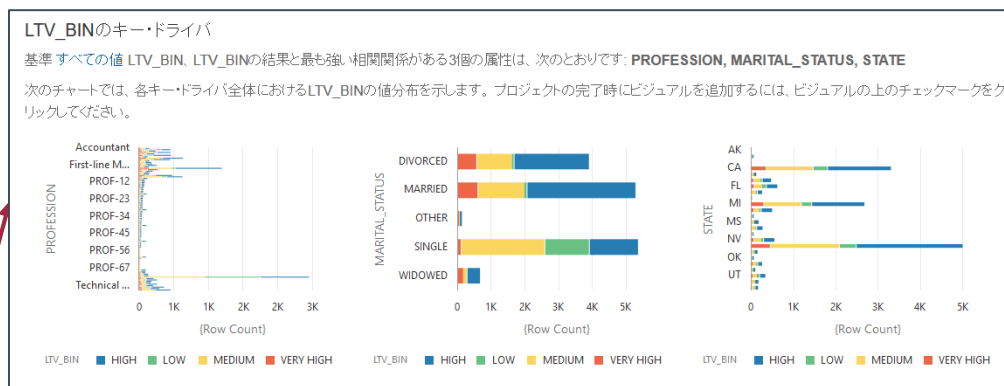


# データ・ドリブンなイノベーション 機械学習プロジェクト – 予測モデル作成・評価・実装

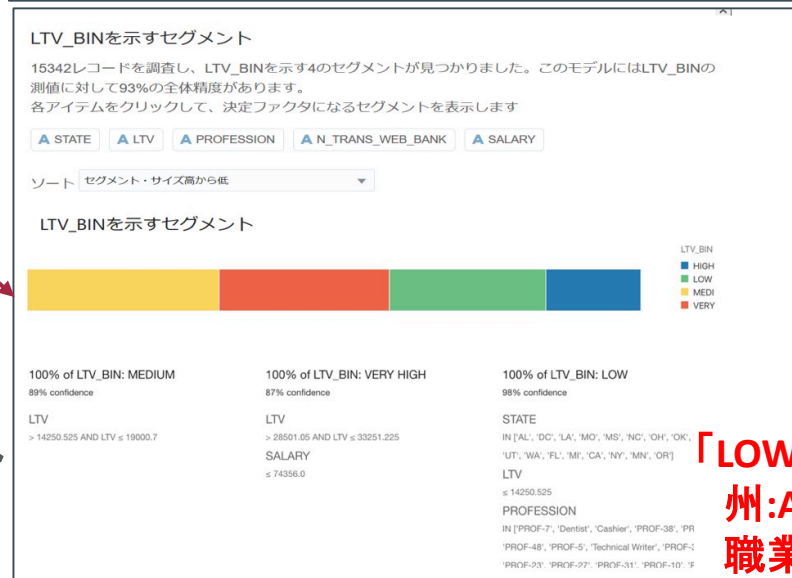
## データの理解の第1歩を、AIが支援



属性(目的変数)を  
右クリック、「説明」を選択



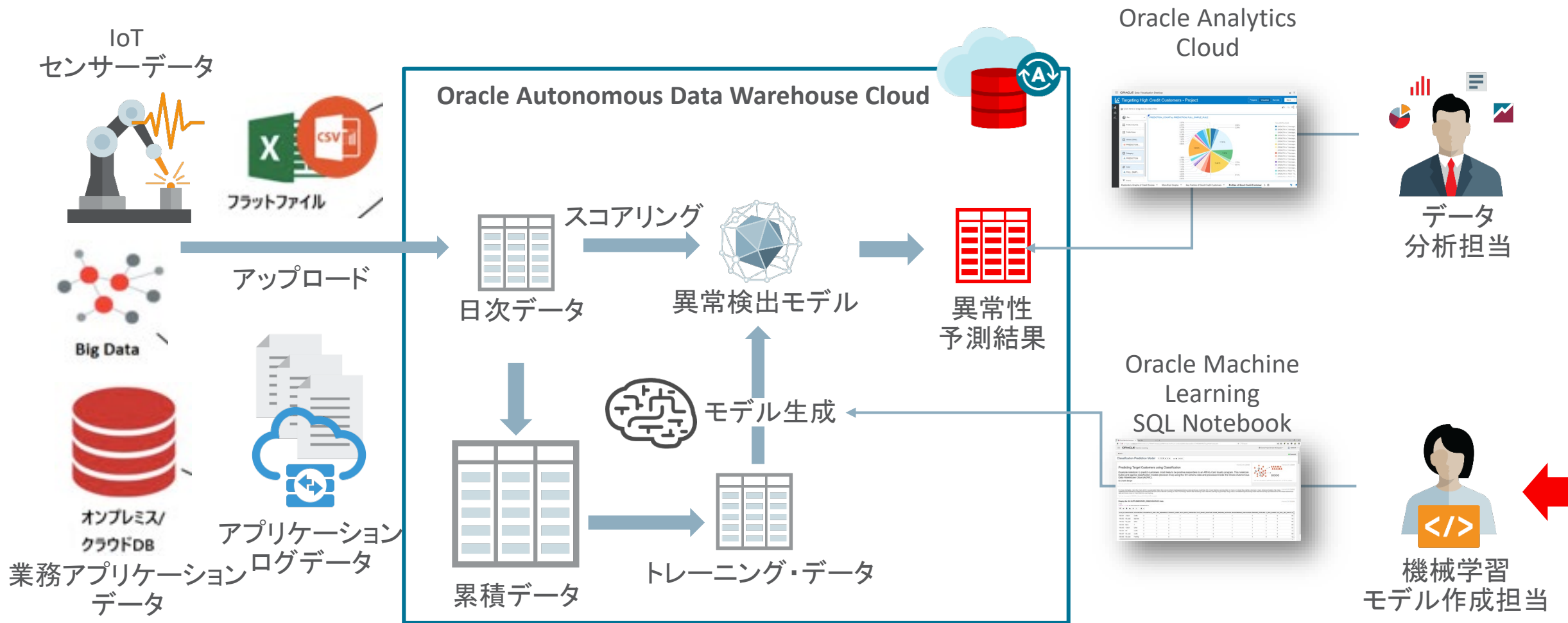
AIが、最も関係性のありそうな  
他属性(説明変数)を自動表示



AIが対象属性内のデータ分類と、  
最も関係性のありそうな他属性  
(説明変数)を自動表示

「LOW」の人に関係しそうな属性  
州:AL, CC, MO, MS ..  
職業: Dentist, Caier ..

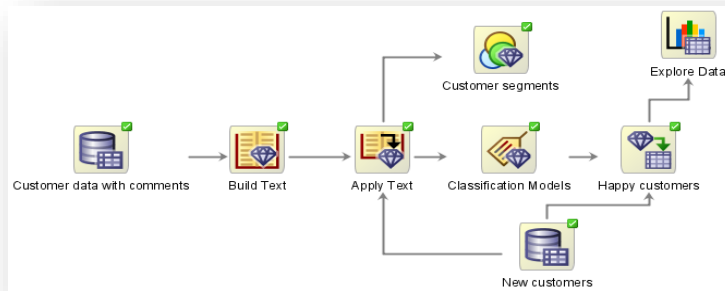
# データ・ドリブンなイノベーション 機械学習プロジェクト – 予測モデル作成・評価・実装



# データ・ドリブンなイノベーション 機械学習プロジェクト – 予測モデル作成・評価・実装

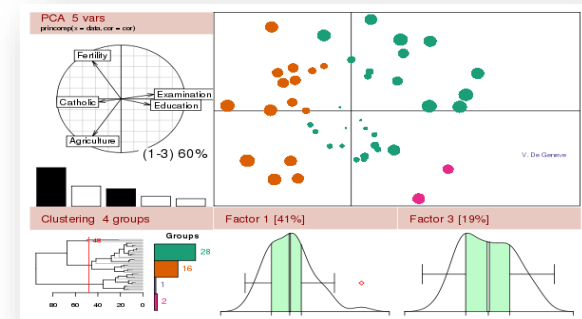
## Oracle Data Mining

- GUIによる機械学習
- データベース内部でマイニング処理
- 作成したモデルをPL/SQLでアプリに組み込み可能



## Oracle R Enterprise

- 利用者の多いオープンソースRの統計言語
- データベース上でRを高速に実行
- 広範で高度な統計解析のための関数を提供



# データ・ドリブンなイノベーション 機械学習プロジェクト – 予測モデル作成・評価・実装

- Oracle Machine Learningとは
  - ADWに付随する機械学習実行支援ツール
  - SQLがベースで機械学習のモデルを作成・評価できます。



## ランダムフォレスト：モデル作成で使用するパラメータの設定

FINISHED ▶ ✕ 📖 ⚙️

```
%script
create table lq_model_rf_setting (setting_name varchar2(30), setting_value varchar2(4000));
insert into lq_model_rf_setting values ('ALGO_NAME', 'ALGO_RANDOM_FOREST'); -- ランダムフォレストを指定
insert into lq_model_rf_setting values ('PREP_AUTO', 'ON'); -- 準備をONに
```

Table LQ\_MODEL\_RF\_SETTING created.

1 row inserted.

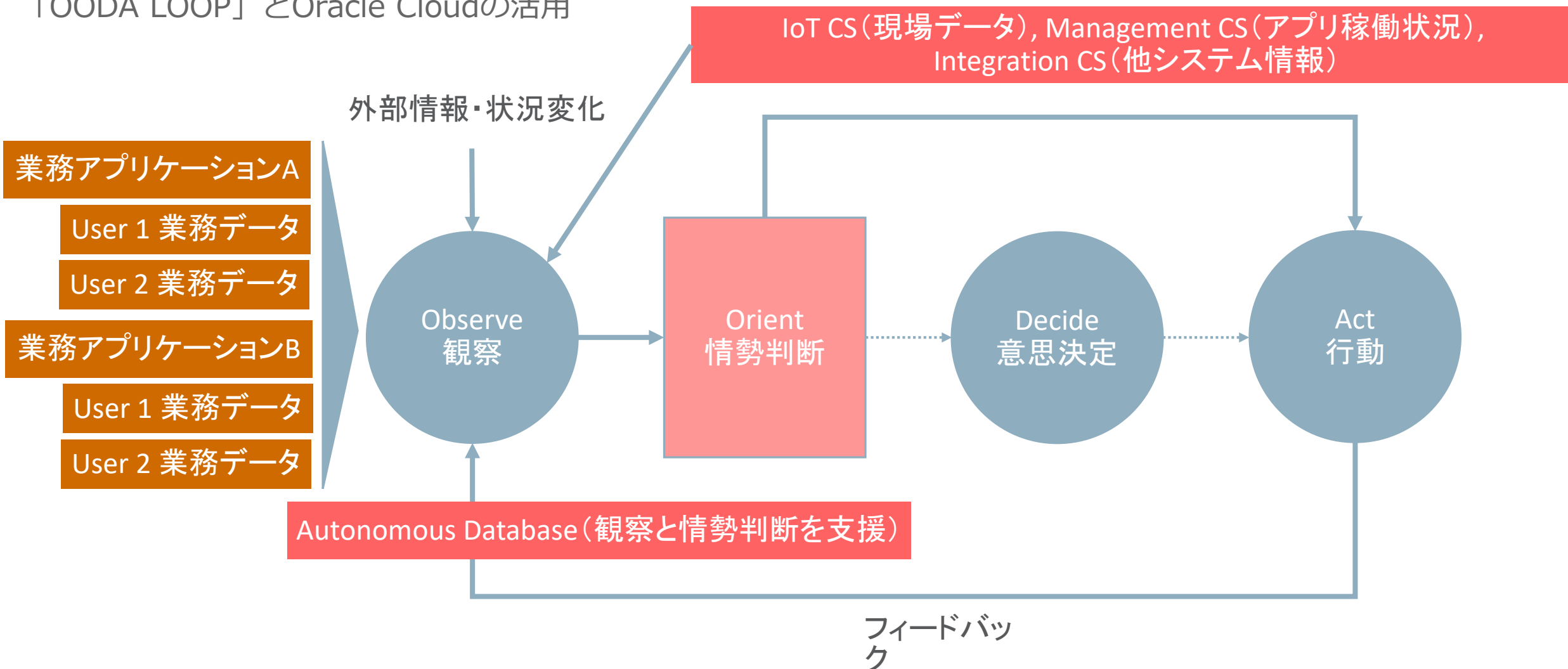
1 row inserted.

パラメータ設定

ALGO\_NAME に、ALGO\_RANDOM\_FOREST (ランダムフォレスト)を設定  
PREP\_AUTO に、ON を設定  
設定可能な「パラメータ名」と「設定値」は、製品ドキュメント参照

# DXとOODAループによる持続的な付加価値の想像

「OODA LOOP」 とOracle Cloudの活用





# Program Agenda

- 1 アプリケーションのクラウド化がもたらす付加価値
- 2 持続的な付加価値の想像
- 3 クラウド活用でOracle Cloudを選択するメリット
- 4 マルチクラウドの活用**
- 5 クラウド活用の成功事例

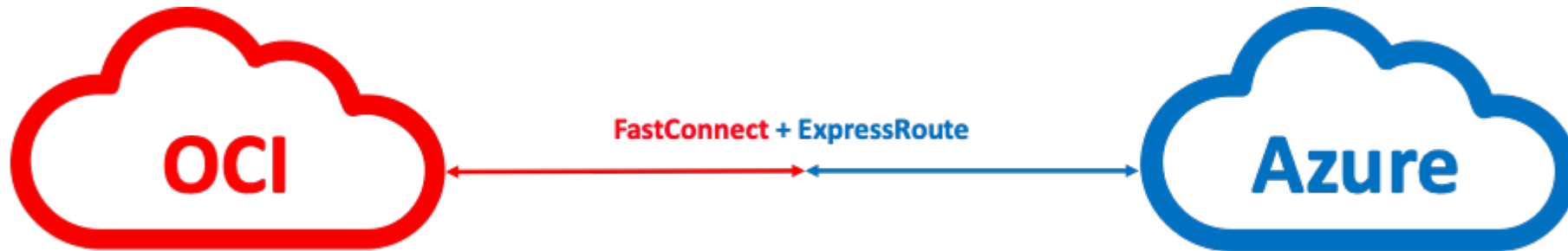
# クラウドの相互運用性に関するパートナーシップ



# マルチクラウドのポイント（１）

## 1. Oracle Cloud / Azure の相互接続

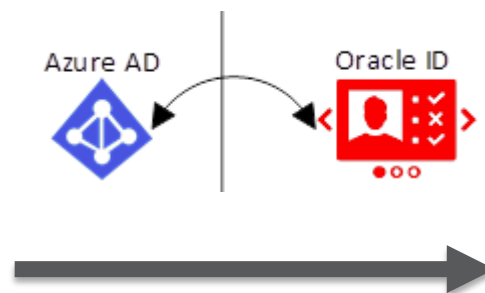
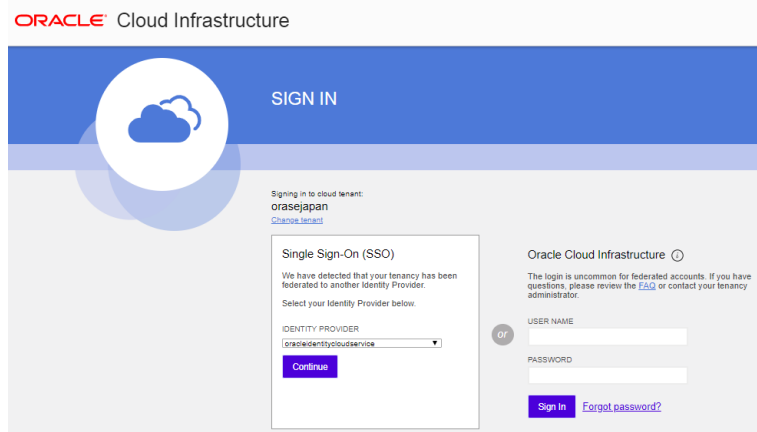
- － 従来はサードパーティーのサービスを利用してマルチクラウド構成を実現していたが、それが不要に(費用や複雑性の低減)
- － Oracle Cloud (FastConnect) と Azure (ExpressRoute) を利用してプライベート接続 (両サービスの費用が必要)
- － 現時点では、両クラウドの北米(東海岸)リージョン間で利用可能 (他のリージョンは今後を予定)



# マルチクラウドのポイント（2）

## 2. Oracle Cloud / Azure でのID/アクセス統合管理

- Oracle CloudのID管理 / Azure Active Directory間で連携可能に
  - 例: Azure ADで認証してOCIコンソールにログイン
  - 例: Azure ADで認証してEBS アプリケーションへログイン



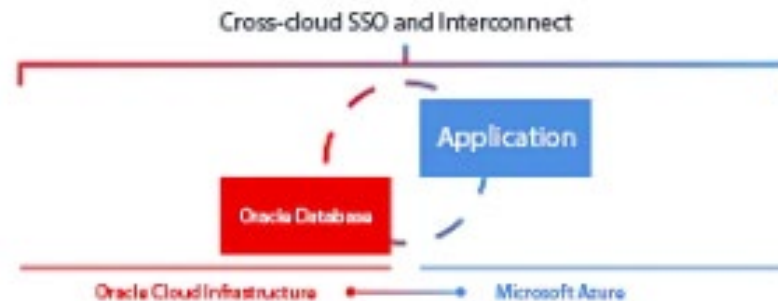
Azure ADで認証して  
OCIコンソールにログイン



# マルチクラウドのポイント（3）

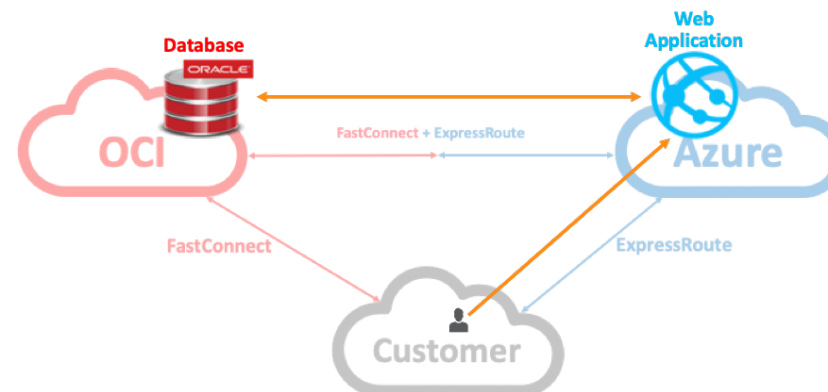
## 3. エコシステムの拡大

- 両クラウドで各社のソフトウェアの稼働をサポート
  - 例えば、Azure上のOracle Applications (EBS, JDE, etc) の稼働をサポート
- 両クラウドでのデプロイメントに対応したツール/ドキュメントの整備
  - デプロイメントを自動化するTerraformスクリプト
  - マルチクラウド構成におけるベストプラクティスガイド

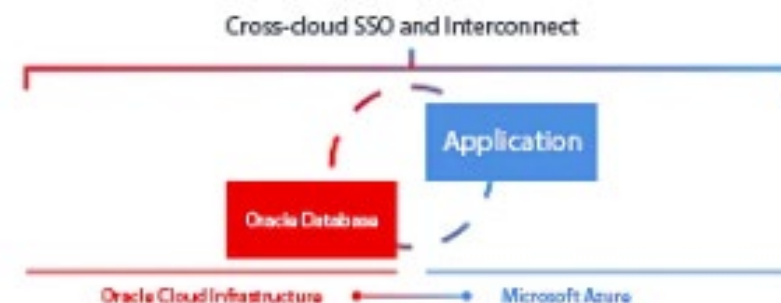


# マルチクラウドの活用ケース

- AP、DB基盤毎に2つのクラウドを活用
  - アプリケーション実行基盤 : AP Server + ID基盤 (Azure)
  - データベース基盤 : Autonomous Database(Oracle)  
これらをデータ連携する際に閉域網接続を利用



- 特徴あるサービスを組み合わせでシステムを構成する
  - IoT(Azure) + Exadata (Oracle)
  - Cognitive Services (Azure) + Autonomous Database (OCI)



# Program Agenda

- 1 アプリケーションのクラウド化がもたらす付加価値
- 2 持続的な付加価値の想像
- 3 クラウド活用でOracle Cloudを選択するメリット
- 4 マルチクラウドの活用
- 5 クラウド活用の成功事例

# クラウド活用の成功事例 – ソフトマックス株式会社

Oracle Customer Success — ソフトマックス株式会社 (Soft Max Co., Ltd.)



## ソフトマックス株式会社、Oracle Cloudの採用で電子カルテの初期投資を最小化

◀ Share



中小規模の病院が電子カルテを導入するためには初期投資のコストを下げる必要がありました。当社が提供する総合医療情報パッケージをOracle Cloudで提供することで、災害時のリスクやセキュリティを確保したシステムを、安価に広く提供できるようになりました。

— ソフトマックス株式会社 副社長 営業統括担当兼東京支店長 松島 努氏



こんな時、かけこむ会社が増えています。



ビジネスプロセスを  
改善したい!



今のシステムは  
使いにくい!



システムコストを  
下げたい!



パフォーマンスを  
良くしたい!



経営分析を  
したいのだが...



どんなソリューションが  
あるの?



見積りはどれくらい  
なんだろう?



楽に管理を  
したい!

**Oracle Digitalは、オラクル製品の導入をご検討いただく際の総合窓口。  
電話とインターネットによる直接的なコミュニケーションで、どんなお問い合わせにもすばやく対応します。  
もちろん、無償。どんなことでも、ご相談ください。**



**お問い合わせは電話またはWebフォーム**

**☎ 0120-155-096**

受付時間 月～金 9:00-12:00 / 13:00-17:00  
(祝日および年末年始休業日を除きます)

**<http://www.oracle.com/jp/contact-us>**

ORACLE®



# PlusUs<sup>®</sup>

## 電子カルテクラウドサービス

2019年8月7日  
ソフトマックス株式会社

医療情報システムを開発・販売・導入・保守まで  
ワンストップで対応する独立系ソフトベンダー

## － 沿革 －

1978年 医事会計システムをリリース  
2002年 オーダリングシステムをリリース  
2004年 電子カルテシステムをリリース  
2011年 Web型電子カルテシステムをリリース  
2013年 東京証券取引所マザーズ上場  
2016年 データセンター利用の  
広域クラウド型電子カルテシステム稼動

Web型電子カルテで年々ユーザ数を  
延ばし、現在、全国の医療機関に

電子カルテ 187施設

医事会計 468施設

を導入

2019年3月時点

【PlusUs エリア別導入実績：468施設】

※2019年3月31日現在



PlusUsシリーズはWeb型電子カルテを中心とする、  
総合医療情報システムです。

Web型電子カルテであることを生かし、オンプレミス・  
プライベートクラウドの両方でシステム提供を行っています。

| 製 品 群 |                    |
|-------|--------------------|
| 診療支援  | PlusUs-カルテ／オーダ     |
| 医事会計  | PlusUs-医事          |
| 部門支援  | PlusUs-リハ／看護勤務／RIS |
| 健診支援  | PlusUs-健診          |

## 医療機関における電子カルテ導入は

|       | 400床以上 | 200～399床 | 200床未満 |
|-------|--------|----------|--------|
| 平成26年 | 77.5%  | 50.9%    | 24.4%  |
| 平成29年 | 85.4%  | 64.9%    | 37.0%  |

出典：医療施設調査（厚生労働省）

となっており、  
メインのターゲットを200床未満の医療機関としています。

## 200床未満の中小医療機関の抱える問題

- ・ 電子カルテ導入に係る資金
- ・ システム担当の不在
- ・ サーバ室等の設備

中小病院の抱える問題に対してのクラウドで解消できること。

- 電子カルテ導入に係る資金

**解決)** オンプレミスに比べ初期投資が抑えられる。

さらに、サーバ保守終了によるサーバ更新に係る、追加投資が抑えられる。

- システム担当の不在

**解決)** サーバハード障害の対応が不要になる。

サーバの確認がサポートセンターより可能になり  
ディスクサイズ調整など、現地対応がなくなる。

- サーバ室等の設備

**解決)** 電子カルテ用の新たなサーバ室の確保が不要になる。

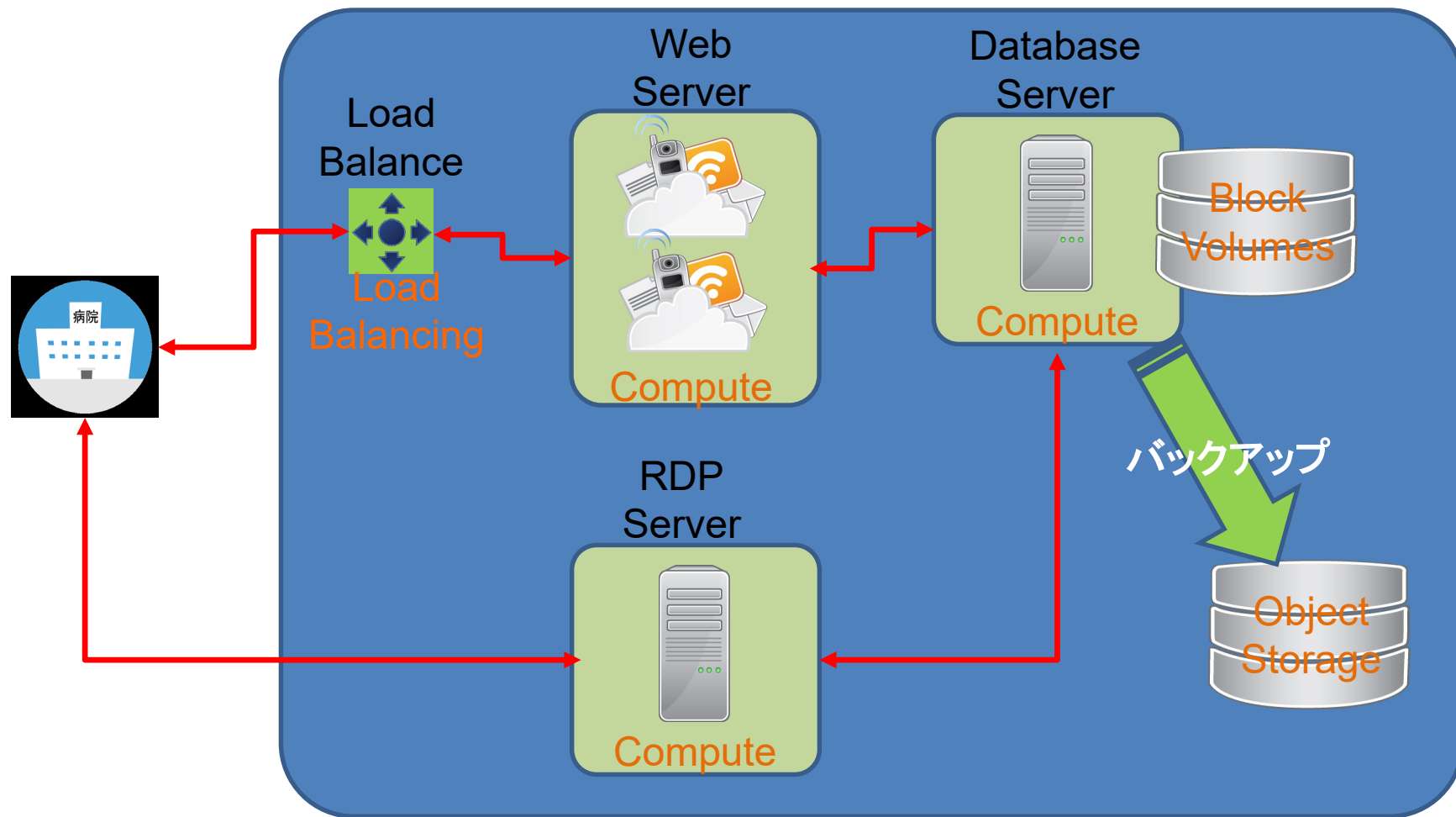
電源工事や空調工事など付帯工事費が不要になる。  
サーバ及びサーバ室に係るランニングコストが  
不要になる。

## PlusUsクラウドサービスでOracleCloudを選択した理由

- 今まで構築してきたアプリケーションがそのまま運用できる。
- 1998年以降OracleDatabaseを使用してきた技術ノウハウが生かせる。
- 既存Databaseライセンスがそのまま継続使用できる。
- OracleCloudの価格設定が他社に比べ安価である。
- Cloud Serviceのサポートが追加の保守契約なしで受けられる。



PlusUsクラウドサービスは、OCI(Oracle Cloud Infrastructure)を使用して提供されます。



OracleCloudを選択して得られた効果やメリットは。

- 費用面でもオンプレミスとクラウドでの提案が効果的にできる。
- 医療3省3ガイドラインに準拠したセキュアなデータセンターとして説明ができる。
- Block Volumesによる高速ストレージをデータベースストレージとして利用できる。
- UniversalCreditsにより契約を変更することなく、導入中と稼働後でサーバ構成が自由に換えられコスト削減ができる。

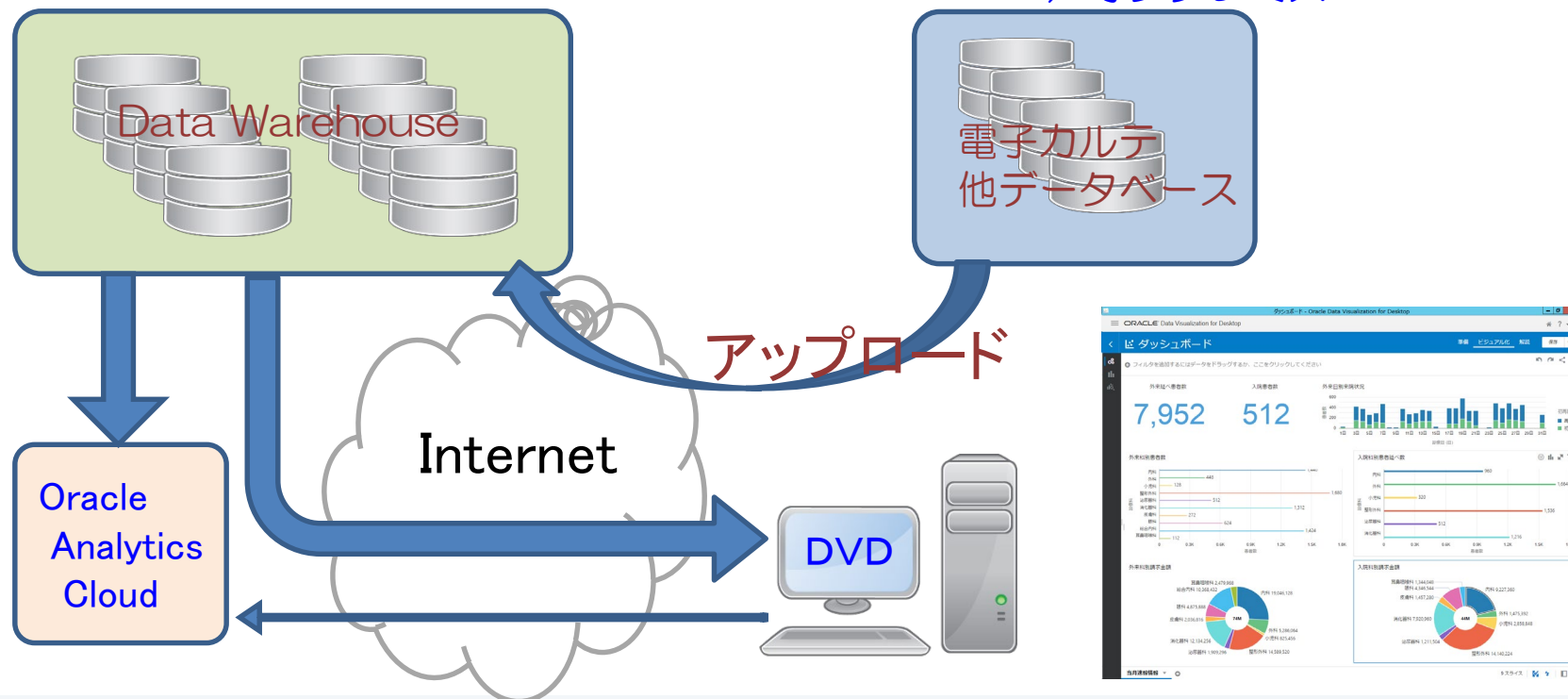
## (戦略1) BI (Business Intelligence) を利用した経営情報の可視化提案による病院経営層へのアプローチ

Autonomous Data Warehouse CloudとData Visualization Desktopの組み合わせで簡単にセルフBIを実現。

更に、より高度なBIを希望されるユーザにはOracle Analytics Cloudで提案。

Autonomous Data Warehouse Cloud

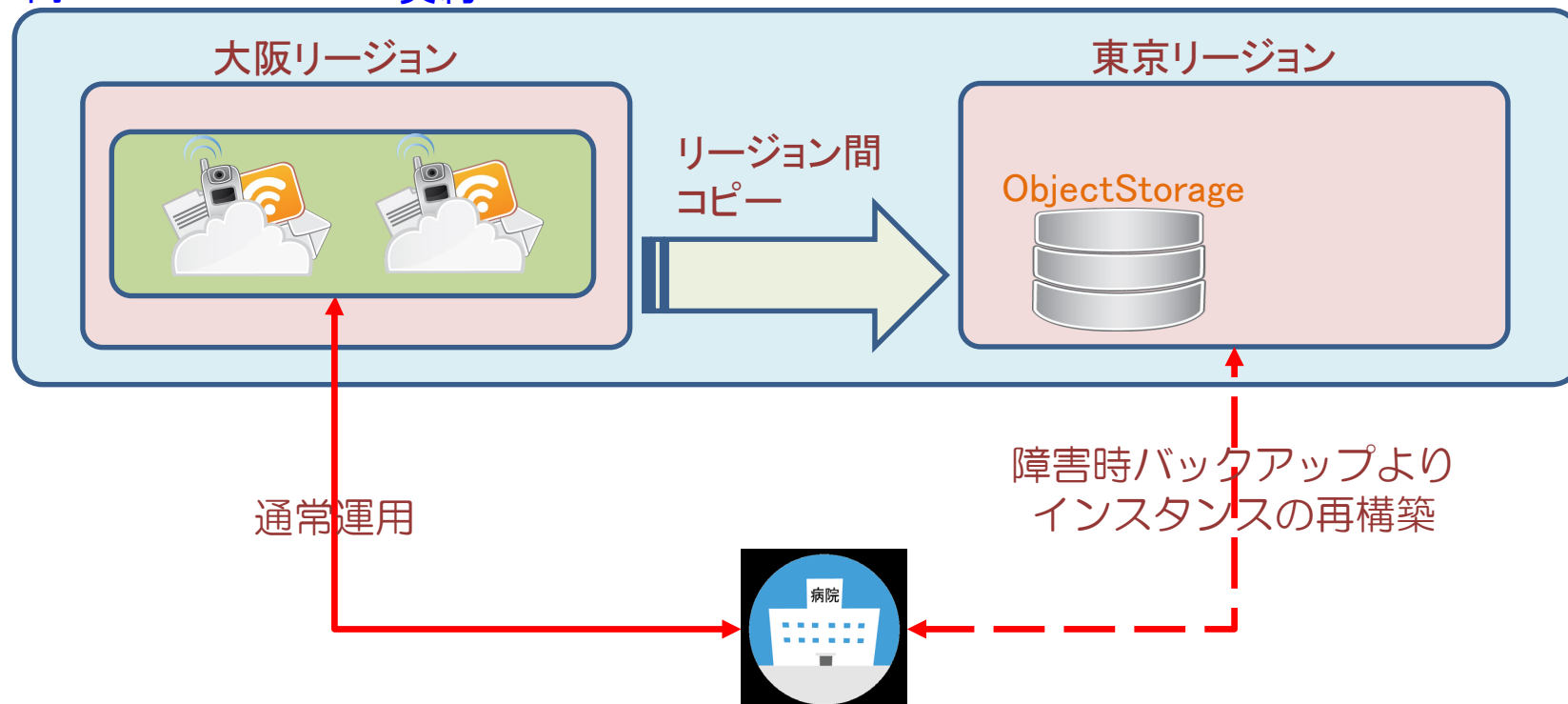
OracleCloud / オンプレミス



## (戦略2) リージョン間を利用した、DR/BCP対策の提案で病院運営の継続性を提案

万が一、利用リージョンへの通信回線切断や、データセンターの障害発生時、別リージョンへバックアップをとりDR/BCP対策として提案が可能。

同一Universal Credits契約



ご清聴ありがとうございました。

